

編集・発行

海老名市役所 市長室

〒243-0492

神奈川県海老名市勝瀬175番地の1

☎ (046) 231・2111

URL <http://www.city.ebina.kanagawa.jp>

\*この広報は再生紙を使用しています。

世帯と人口

10月1日現在・( )内対前月比

世帯 47,122 (+84)

人口 123,619人 (+104)

男 62,915人 (+63)

女 60,704人 (+41)

# 広報えびな

# 収穫の喜びを実感



## 稲作体験農園で稲刈り

10月17日、雲ひとつない秋晴れの空の下、上郷に広がる水田地帯の一画で、20組90人の市民が稲刈りを行いました。この「稲作体験農園」は、市が稲作を体験したい市民1組に約100平方メートルの水田を貸し出し、実際の農作業を通じて農業への理解と関心をもってもらおうと、3年前から行っている事業です。

### 金色の稲穂に満足

農園に集まった参加者は、「夫の退職後、健康保持のため農業に初挑戦」したというご夫婦、「食べ物の大切さを子どもたちに学んでもらうため」というボイスカウト団長と応募理由はさまざまですが、自分が植えた苗が黄金色の稲に生長し風に揺れる様子を、全員が満足気に眺めていました。鎌の扱い方などの説明を受けた後、いよいよ作業開始。稲が倒れにくく実の収

量が多いことが特徴の品種「祭り晴」を、黙々と刈り取る大人たちとは対照的に、子どもたちは刈り入れの係や運搬係を順番に受け持ち、声を掛け合いながらの連携作業。途中カエルを見つけた。歓声を上げることも度々。

2時間の作業で収穫した約600kgの米は、後日乾燥・粃すりをして、1組約30kg分配されますが、主婦の1人は「お米は実家を持っていきます。よいお土産ができました」と。子どもたちからは、「田んぼがすごく広くて、楽しかった!」とい

### 出来栄えにひと安心

こうした声を聞いて安心したのが「みずほ会(中島敦会長、会員16人)の面々。体験農園の管理を委託されている同会は、稲が順調に育つよう、今日までの間、田起し、施肥、代掻きなどの作業を行ってきました。農繁期でも、明け方に来て除草を行ったそうです。今年は害虫の発生や台風の影響が心配だったという

う印象が聞きました。

みずほ会は、農業技術などの研究と、会員同士の交流を目的とし、多くの人が知ってほしい。20代から30代までの若い農業後継者の会で、40年前と比べ、農業

地、農業人口とも半分以下に減っていますが、会員は各自の研究成果を提供し合い、地域に根ざした農業経営を目指しています。また、海老名の農業を多くのの人に知ってもらうために、ペンタなどの機会があれば、いつも積極的に行動しています。

中島会長は、「身近に水田のある風景、散歩中に自然とふれあえる環境の大切さを、体験農園を通してみなさんが感じてくださればうれい」と話しています。土の日、産直まつりなど、これからも市内の農業にふれる機会があります。子どもたちと一緒に、海老名の農作物や農地を実感してみたいかがですか。

●体験農園に関する問い合わせ 農政課農政担当。